

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	室内音響小委員会	主 査 名：羽入敏樹 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：濱田幸雄
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>室内音響学を劇場や音楽ホールだけでなく様々な空間に広く応用できるようにし、室内音響学の社会貢献を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2009 年度：活動目的・方針の明確化 ・2010 年度：建築家とのコラボレーションのためのシンポジウム企画・準備 室内音響設計資料集・データベースの可能性を探る ・2011 年度：建築家とのコラボレーションのためのシンポジウム開催 室内音響設計事例集の企画案検討 ・2012 年度：傘下 WG の成果報告シンポジウム開催 室内音響設計事例集作成のための WG 設置 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し	
	<p>主査：羽入敏樹(日本大学) 幹事：池上雅之(大林組), 上野佳奈子(明治大学) 委員：石渡智秋(永田音響設計), 大久保洋幸(NHK), 尾本章(九州大学), 川井敬二(熊本大学), 阪上公博(神戸大学), 坂本慎一(東京大学), 佐久間哲哉(東京大学), 佐藤史明(千葉工業大学), 清水寧(東工大), 田中亜美(日建設計), 藤原舞(ヤマハ), 船場ひさお(横浜国立大学), 佐藤洋(産業技術総合研究所)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>1) 音響指標測定研究 WG: インパルス応答から得られる音響指標のベンチマーク作成を目指す。</p> <p>2) スピーチプライバシー研究WG: 情報漏洩防止や個人情報保護といった時代的要求の高まりを受け、会話音声に関するプライバシー保護技術の確立を目指す。</p> <p>3) 室内音響設計事例集企画準備 WG: 室内音響設計事例集の企画の作成準備を設置目的とする。</p>	
2012 年度予算	57,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. 第71回音シンポジウム「インパルス応答測定に基づく室内音響指標の算出に関する現状と課題ー音響指標ベンチマーク問題の作成に向けて」 参加者数 40 名</p> <p>2. 第 72 回音シンポジウム「スピーチプライバシーの評価と制御 ～音声情報漏洩防止の観点から～」 参加者数 52 名</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>室内音響小委員会(以下 2012 年度分)</p> <p>1-1. 室内音響設計事例集の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内音響設計事例集の方針・方法について議論し、室内音響設計事例集企画準備 WG を設置した。 <p>2. WG の活動成果</p> <p>2-1. 音響指標測定研究 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音響指標ベンチマーク問題についての検討をまとめ、第 71 回音シンポジウム「インパルス応答測定に基づく室内音響指標の算出に関する現状と課題－音響指標ベンチマーク問題の作成に向けて」を実施した。 <p>2-2. スピーチプライバシー研究WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本におけるスピーチプライバシーについての議論・検討をまとめ、第 72 回音シンポジウム「スピーチプライバシーの評価と制御 ～音声情報漏洩防止の観点から～」を 2013 年 2 月に開催予定。 <p>2-3. 室内音響設計事例集企画準備 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例集の読者となりうる人を対象に事例集のニーズなどについてヒアリングを行った。
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>室内音響小委員会の活動成果</p> <p>室内音響の新たな方向性について議論し、“室内音響学を劇場や音楽ホールだけでなく様々な空間に広く応用できるようにし、室内音響学の社会貢献を進めること”を目的に定め活動してきた。具体的成果は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第 69 回音シンポジウム「音を巡る空間設計の可能性－音楽ホールだけではない音響設計－」を 2012 年 5 月に開催した。音響関係、建築設計者、学生など 160 名の参加者があり、音響設計の可能性と課題について活発な議論が行われた。 2) シンポジウムでの議論を踏まえ、室内音響設計の必要性やテクニックをわかりやすく説明するための“室内音響設計事例集”を作成する方針を決定し、具体的内容を検討するための“室内音響設計事例集企画準備 WG”を設置した。 3) 音響指標測定研究 WG に関し、インパルス応答と音響指標のベンチマークを作成するという新たな活動方針を定めた。 4) 室内音響の新たな方向性である“スピーチプライバシー”に関し、スピーチプライバシー研究 WG の活動を踏まえながら議論した。 <p>2. WG の活動成果</p> <p>2-1. 音響指標測定研究 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音響指標ベンチマーク問題についての検討をまとめ、第 71 回音シンポジウム「インパルス応答測定に基づく室内音響指標の算出に関する現状と課題－音響指標ベンチマーク問題の作成に向けて」を実施した。参加者による活発な議論が行われ、その成果は 2013 年度の室内音響学の国際会議 ISRA2013 でも発表予定である。 <p>2-2. スピーチプライバシー研究WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米の研究成果の導入に留まらず、日本におけるスピーチプライバシーの必要性や課題について様々な方向から検討してきた。その結果をまとめ、第 72 回音シンポジウム「スピーチプライバシーの評価と制御 ～音声情報漏洩防止の観点から～」を 2013 年 2 月に開催予定である。 <p>2-3. 室内音響設計事例集企画準備 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例集の読者となりうる人を対象に事例集のニーズなどについてヒアリングを行った。その結果を整理し、来年度より“室内音響設計事例集企画検討 WG”として活動を本格化する。 			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。